

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 29 年 1 月 25 日（第 36 号）

発行：島田療育センターはちおうじ

2011 年（平成 23 年）4 月 1 日に、島田療育センターはちおうじは歩みを始めました。それは、東日本大震災の年でした。1 年後、あくりるたわしの活動を手伝うことができ、相馬と私の物語が始まりました（4）。それとともに、全国から応援の手紙が届きました。どれも温かい手紙でした。その手紙を紹介します。

所長 小沢 浩

（4）手紙

先日は、あくりるたわしをお送りいただきありがとうございました。自分はもうすぐ還暦を迎えようとしている親父ですが、以前から掃除や食器洗いが趣味？であくりるたわしを愛用しておりました。今までは女房が作ってくれた一色の同じ形のものを使っておりましたが、送っていただいたものは本当にカラフルな上に形・大きさが不ぞろい（良い意味ですよ）で、まずは眼で楽しませていただきました。基本的にはキッチンで食器洗いに使う事が多いですが、鏡、ガラス扉、風呂、トイレ、洗車などいろいろな所に使用しています。今回、何人かにアクリルたわしをあげたのですが、食器洗い以外



の使用法を知らない者も居りましたので、教えておきました。30枚送っていただいたのですが、その時に娘が家に来ておまして、皆さま方が1枚ずつ書かれたメッセージをすべて読んでいました。

読み終わった後に、娘は何も言葉を発しませんでした。なにか心に期すものがあったようで、友人に配ると言って何枚か持って帰りました。皆様方がこの震災を忘れられる事は決してないと思いますが、直接に被害を被ったものでなければ、時間とともに風化してしまうものです。し



かしこの震災の記憶は決して風化させてはならないものと思っております。震災の事を風化させないような取り組みは全国各地で行われているようですが、皆様方の作られたあくりるたわしに添えられた1枚のメッセージは、大きい講演などにも劣らないすばらしいものであると思っております。本当に微力ですが応援させてください。どうぞお体に気をつけて、頑張りすぎないようにお続けください。

子どもと一緒にミニピラを切って、1袋ずつに入れていきました。メッセージを読んでまた涙が溢れてしまい作業が進みません。子どもたちも真剣に読んでいました。特に次男(7歳)がたわしを気に入って、洗面所の掃除を始めました。「きれいに掃除できたよ～」と嬉しそうでした。また夏にボランティア頑張ろうねと話しました。(福島の子どもたちを受け入れるキャンプのボランティアを今年もやります)たわしは、大切な人、協力して下さりそうな人に差し上げていこうと思います。小幡様にも伝えたいことがたくさんあります。



うまく言えないのですが、本当に今回は貴重な機会を頂きありがとうございました。色々と考えさせて下さったことに感謝します。福島はご不便なことが続くとお察ししますが、どうかお体ご自愛ください。関係の皆様、本当にありがとうございました。

*

2012年10月に10000個を超えた。

*

2013年には、原発事故によって被災された相馬郡飯館村の方々が加わってくれた。



(※現在、あくりるたわしは卒業したため、注文は受けていません。)

奇跡がくれた宝物 小沢浩著

クリエイツかもがわ より)

